

# 長崎高教組新聞

発行  
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号  
長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合  
☎ (095)-827-5882  
FAX (095)-826-2976  
編集責任者 平井秀治  
一部 10円

高教組メールアドレス  
info@nagasaki-kokyoso.org

## あたたかい顔の見える高教組運動を すべての組合員の手ですすめよう

### 長崎高教組第82回定期大会 方針など満場一致採択

長崎高教組第82回定期大会は6月18日、大村市で開催され、すべての議案を満場一致などで原案通り、これを可決しました。

大会の冒頭、挨拶に立った平井委員長は、3つの点から長崎高教組の責務を説明しながら「長崎高教組を強く大きくして行かなければならない」と述べました。

本年度の運動方針を決めるに当たって、その討議には本部を除き延べ28人が立ち、運動の補強を行いました(内容は次号以降に掲載)。

大会の最後には「職場の最後には、あたたかい顔の見える高教組運動をすべての組合員の手ですすめよう」とする宣言を採択し、閉会しました。

### 来賓など高教組運動の支援・協力を約束

日高教の井村書記次長は、「24組合が昨年より増勢を築き」、「組合レベルがなくなり、組合に対する期待が高まっている」と挨拶しました。

堀江ひとみ県議(共産)は、来賓挨拶で「働きやすい職場づくり」や「子どもと向き合う時間の確保」に向けて奮闘する高教組を慰労しながら、側面から支援することを明らかにしました。

高退教の伊東会長は、高教組の定年延長のとりくみ方針などに賛同する意思とともに、運動に惜しみなく協力する姿勢を表明しました。



▲ 森副委員長の開会宣言を聞く大会参加者

大会の最後には「職場の最後には、あたたかい顔の見える高教組運動をすべての組合員の手ですすめよう」とする宣言を採択し、閉会しました。

1つは、希望する社会に向けて、要求実現のとりくみを引き続き強めていきたいということです。

3・11東日本大震災官・産・学・メディアの発の事故も重なって、史つづつた」と語っていま上空前の大災害となり、社会や経済、政治に重大な影響を与えるものとなつています。ここで私は改めて組織を代表し、大震災の犠牲者の皆さんに哀悼の意を表するとともに、全教・日高教の提起する被災地救援活動にとりくみ続けることを表明致します。

ところで大震災と原発事故は、現代社会のなかで、「強固」や「安全」と説明されてきたことが実は「脆弱」で「危険」であるということ鮮明にしました。

国政では、菅内閣の復旧・復興の遅れを利用した権力闘争が繰り広げられ、国民の厳しい批判を受けるとともに、政治の「軽さ、頼りなさ」が問題になっていきます。

なぜ「安全」でなかったのか。原発事故に関わって、自民党の政治家・河野太郎氏は、原子力の「安全」は「神話、おとぎ話」であり、これら作り話の「中心は自民党と経済産業省、電力会社」にあることを指摘しています。この立場に立って河野氏は、「電力会社は大学に研究費を出し、都合の良いことしか言わない御用学者を作り出す。多額の広告代をもらうマスコミは批判が緩み、巨悪と添い寝してきた。政・

添い寝することもありま

私たちが生徒や教育の子ども・教育を案ずる多くの教職員、大震災の被災地にボランティアとして出掛けられた組合員、自分地にあって差し出す元組合員：こうした仲間を私は心から誇りに思っています。この誇りを皆さんと共有したいと思います。私たちの要求と願う社会の実現のためにも、確かな方針に基づきとりくみを進めていこうではありませんか。

私たちが運動は、批判を緩めることも、巨悪に

### 長崎高教組第82回定期大会挨拶

## 高教組を強く大きく していかなければならない



平井秀治 執行委員長

2つは、長崎の政治情勢や教育行政の現実から、長崎高教組のとりくみに確信を持ち、引き続き頑張っていきたいということです。

県教委は不祥事の度に「通知」を発し、私たちに「不祥事を絶対に起こさない」という強い決意を政の立場から、「ちよつと」に全力を傾注すること」を求めます。私は昨年の大会の挨拶で、これを批判し、次のように述べました。

「県教委の求める『全風通しが悪くなったのか』という反省も責任も感じられないという弱点があります。

しかし、知事や教育長の言動には、職場で、なぜ連帯感が希薄になり、風通しが悪くなったのかという反省も責任も感じられないという弱点があります。

「信頼回復に向けた対策が一人ひとりに届くように、明るく風通しのように職場づくりに努めていく」(5/17 コンプライアンス対策本部会議)。

立場に立つことが求められている」

その後の情勢は、ご存じのように私たちの指摘はありませぬか。

昨年の秋、当時の寺田教育長は不祥事対策で直接現場に赴き、教職員相互の「つながりや連帯感が薄い」ことに言及しました。教育の営みには「支え、支えられ」という人間関係が大事というわけですね。こうした認識の延長に、中村知事や渡辺教育長の講話があるという点が出てきます。

知事は10年経過研の教職員を対象に語りました(4/25)。

「相談できるような風通しのいい職場づくりに努めていかなければいけない」

「横を向いて、同僚とたまにはワイワイガヤガヤ話し合う場を、つくっていただきたい。そのことが創造的な時間に必ずや、つながる」

そしてまた、教育長は「信頼回復に向けた対策が一人ひとりに届くように、明るく風通しのように職場づくりに努めていく」(5/17 コンプライアンス対策本部会議)。

(裏面に続く)

定期大会執行委員長挨拶 一面より続き

私たちは絶えず「いま 事実、前教育長は現場のような教育行政施策を...」

3つに、長崎高教組に対する期待は高く、この期待に大いに応え、組織の前進を果たしていきたいという事です。

長崎高教組は1948年に旗揚げした本年63年を迎える教職員組合で...

人)を大きく上回る結果となりました。限られた範囲のアンケートですが、組合の必要は衆人が認めるところとなつています。私は、ある会議に出席したなかで次のような発言を聞きました。

シヤひとり旅 inアジア

満足の度合いで宿賃が決まる

「...私は今はマレーシアの中部、イポーという町にきています。ご存知のようにこの国には主にマレー系、インド系、中国系の3つの人種が混ざりあって生活しています。私も中国系に混じってあまり外国人扱いされずに気楽です。」

はじめて泊まった宿がかなり快適だったので、私は1泊延長することにしました。そのときのやりとりです。

「あの、もう1日泊まりたいんだけど」「オーケー、それじゃ聞きたいんだけど、泊まった感じ満足したかい。もし満足したなら昨日までと同じで25リングギットだ。でも、例えば僕らのサービスとか部屋とかで満足しなかったなら20でいい」「え、ええっと、あ、うん。満足したよ」「じゃあ25だ。いいかい?」「そうだねえ」「本当にいいのかい?シヤが満足しなかったのなら20にするよ。それが僕らのやり方なんだ」

私は値段の交渉については「駆け引き」のようなものを行うイメージがありました。できればこちらは安く払いたいと思います。お金は今持っていないとか、あっちの店ではもっと安かったとか言っただけで値段交渉し、相手の提示した額より安く買うのが、セオリーだと思っていました。

しかし今回の場合はそうではありませんでした。駆け引きなどではない。嘘なんてつこうと思えばつける状況にしながら、私の気持ちを聞いてきたのです。

私はその裏表の無さに驚いてしまい、25リングギット払うことにしました。彼らの態度から顔色をうかがうことのない、誠実さのようなものを学んだような気がしました。

今後はさらに北に向かいます。」(2011年5月15日のメール便り)

読者のみなさんへ

シヤさんは、大学卒業から今春までの5年間、県内の高校4,5校で教師として英語を教えていましたが、「若いときにやってみたい、見聞を広めたい」ということで外国を旅することを決意、実行している青年です。平井委員長のかつてのクラス生徒であり、森副委員長などの元同僚ということもあり、旅のレポートをお願いしました。シヤさんはこれを快諾し、情報部でタイトルなどを編集して紙面に掲載しました。以降随時、掲載しますのでご了承ください。

シヤさんの旅の安全を祈っています。

書記局から



「先日、私の口座に退職にかかわる救援補償金が振り込まれていました。これは、元々全教・日高教の仲間からの支援によるものであり、この分を日高教を通じて被災された方々のお役に立てていただきたいと思います。お手数ですが、諸手続をよろしくお願いします。」